

## 第13回 創薬支援ネットワーク協議会 議事概要

■日時：平成30年9月21日(金) 14時00分～15時00分

■場所：中央合同庁舎4号館12階 共用1214 特別会議室

■出席者：

議長：内閣官房 和泉健康・医療戦略室長

構成員：内閣府 小川日本医療研究開発機構・医療情報基盤担当室室長

大坪日本医療研究開発機構・医療情報基盤担当室次長

文部科学省 磯谷研究振興局長

生川大臣官房総括審議官

厚生労働省 吉田医政局長

佐原大臣官房審議官

経済産業省 藤木大臣官房商務・サービス審議官

渡邊大臣官房審議官

国立研究開発法人日本医療研究開発機構 末松理事長

河野創薬戦略部長

国立研究開発法人理化学研究所 小安理事

国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 米田理事長

国立研究開発法人産業技術総合研究所 松岡理事

日本製薬工業協会 中山会長

参考人：国立研究開発法人日本医療研究開発機構 竹中プログラムディレクター

独立行政法人 医薬品医療機器総合機構 近藤理事長

■概要：

1) 創薬支援ネットワークの活動状況(資料3)

- AMED河野創薬戦略部長より、9月末に新たに1件の支援テーマが企業へ導出予定であり、当初の目標(2020年までに5件の導出)が達成される見込みであることなどが報告された。

2) 平成31年度創薬支援ネットワークに必要な予算要求方針(資料4、5)

- AMED河野創薬戦略部長より、AMEDから3独法に対して要請した創薬支援ネットワークで必要な技術・設備の平成31年度予算要求の対応状況について説明があり、要請どおり3独法からの予算要求に反映された旨が報告された。
- 各独法からは創薬支援ネットワークに対する支援状況および平成31年度予算要求に反映させた新たな技術・設備について説明がされた。また、各省より当該予算要求を支援する旨の発言があった。
- 厚生労働省佐原大臣官房審議官より、創薬支援ネットワーク関連の平成31年度概算要求の状況について説明がされた。

3) 前回創薬支援ネットワーク協議会での宿題事項(資料6)

- AMED河野創薬戦略部長より、前回協議会で議論された「創薬支援ネットワークにおけるベンチャー支援策」について、創薬支援ネットワークに設置している創薬支援推進ユニットの中で、スタートアップユニットがベンチャー起業支援を行っていることを報告した。また、経済産業省藤木大臣官房商務・サービス審議官から健康・医療戦略ファンドタスクフォースにおいて、様々な官民ファンドの相談窓口を一本化する取り組みを行う予定であること、および今後成長が見込まれるベンチャーを優先的に支援する取り組み(J-Startup)を行っていることが報告された。
- AMED河野創薬戦略部長より「支援終了テーマの周知」について、支援終了後3年間、AMEDのホームページでテーマ名を掲載していることが報告された。
- AMED河野創薬戦略部長より「3独法およびCROを活用した支援状況」について、支援テーマに対して、ステージ別(標的検証～前臨床開発の4ステージ)やテーマ状況別(導出、支援中、支援終了)に3独法およびCROがどのような支援を行っているかが説明された。
- 宿題事項への報告内容について以下の意見があった。
  - ・ CROへの外注について、CROは担当者レベルで能力にばらつきがある。きちんと業務がなされているか、内容面や時間的側面からチェックする監督体制を整える必要があるのではないか。
  - ・ ベンチャー起業支援について、ベンチャー起業経験がある人がよいアドバイザーであるが、日本にはあまりいない。米国には技術面や経営面でアドバイスを

する人のネットワークが形成されている。米国のネットワークを取り込む必要があるのではないか。

- ・ 支援テーマ採択時の目利きにおいて、米国ではそれぞれの分野でトップクラスの人材が参加していることが多い。国内外のトップクラスの人材を評価者に組み込む必要があるのではないか。
- ・ 今後バイオ医薬品等の新しいモダリティの研究開発が主流になる中で、生産・製造プロセスを理解している人が創薬の初期の段階から加わり、ものを作り込みながら研究を進めていくという新しいプロセスの設計が必要ではないか。

#### 4) その他

- 次回協議会（3月開催予定）では、平成30年度の成果および平成31年度予算決定額に基づいた計画について確認するとともに、次回協議会前に予定されている創薬支援ネットワークアドバイザーボードにおける議論について報告する。

以上